

平成 27 年 4 月 3 日

各 位

上場会社名 ナノキャリア株式会社

代表者 代表取締役社長中富 一郎

(コード番号 4571)

問合せ先責任者 CFO 兼社長室長 松山 哲人

(TEL03-3241-0553)

平成 28 年 3 月期業績予想についてのお知らせ

当社は、本日開催の取締役会において、平成 28 年 3 月期（当事業年度）の通期予算を決定致しましたので、これに基づく業績予想を下記のとおりお知らせします。

記

1. 平成 28 年 3 月期通期業績予想（平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日）

(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
平成 28 年 3 月期 (予想)	137	△2,666	△2,617	△2,772	△65.06
(ご参考) 平成 27 年 3 月期 (予想)	675	△1,129	△189	△227	△5.61
(ご参考) 平成 26 年 3 月期 (実績)	472	△1,123	△1,094	△1,113	△30.44

当事業年度は、当社が現在国内外で進めております臨床試験の将来における申請及び承認を視野に入れた、より拡大した適応症における臨床開発投資を行う年度であり、また新規パイプラインに対する研究開発投資が本格的に立ち上がる年度でもあります。従って、当事業年度の臨床開発費用や新規パイプライン開発費用などの研究開発費用は、前事業年度と比べますと大幅に増加することが予想されます。しかしながら、このタイミングにおけるこれらの重点的な投資は、中長期的には当社の企業価値の極大化に繋がるものと判断しております。

当事業年度の営業利益、経常利益、当期純利益につきましては、臨床開発及び新規パイプライン開発に対する拡大展開による投資増加により、それぞれ△2,666 百万円、△2,617 百万円、△2,772 百万円になることを見込んでおります。

より具体的には、主要パイプラインの自社開発による臨床試験の拡大展開、新規パイプラインとして開発を進めております抗体/薬物結合型ミセル(ADCM: Antibody/Drug Conjugated Micelle)を用いた次世代型医薬品開発の推進、siRNAなどの核酸医薬品に対して適用できるミセル化ナノ粒子技術 Active 型 NanoFect®の開発加速化等に伴い、研究開発費用が増加することによるものです。各プロジェクトに関しては以下の通りです。

ナノプラチン®(NC-6004)につきましては、アジア地域を対象としたライセンス先である Orient Europharma Co., Ltd. (台湾)と共同で膣がんを対象とした第Ⅲ相臨床試験を実施しておりますが、今後は地域の拡大及び頭頸部がんの追加適応症を検討しております。また米国における自社開発においても、現在実施している非小細胞肺癌を対象とする第Ⅰb/Ⅱ相試験に加え、頭頸部がんを含む数種の適応症を対象とした第Ⅰ/Ⅱ相試験あるいは第Ⅱ相試験を拡大し、早期承認を目指すために戦略的に臨床試験を展開していく予定であります。従来の臨床試験に加えて新たな適応症を追加することにより、適応症の選択性を拡大し、早期承認の可能性が高いと判断される適応症に絞り込んで臨床試験を推進することにより、治験期間の短縮と承認確率の向上を目指します。

ダハプラチンミセル(NC-4016)につきましても、現在米国で固形がんを対象にした第Ⅰ相臨床試験を自社で進めておりますが、今後は早期承認の可能性が高い適応症の第Ⅰ/Ⅱ相試験を追加し、承認取得を目指します。

エピルビシンミセル(NC-6300/K-912)につきましては、全世界を対象にしたライセンス先である興和株式会社と共同で、日本において固形がんを対象にした第Ⅰ相臨床試験を実施しておりますが、今後は適応症追加も考慮しながら、乳がんの適応症に対する第Ⅰ/Ⅱ相試験を推進していきます。

新規パイプラインについての研究開発につきましては、エーザイ株式会社より導入したE7974に対する次世代型 ADCM 技術の適用により、癌細胞へのターゲティング性能を高め、毒性を軽減することで治療域を拡大する新規医薬品の開発を進めており、ヒトでの臨床試験開始に向けて準備を進めております。また、中外製薬株式会社と共同で、当社の核酸デリバリー技術 (Active 型 NanoFect®) を基に、これまでにないファーストインクラスの siRNA 医薬品開発を目指し、共同研究開発を推進します。

また当事業年度の売上高に関しましては、主に株式会社アルビオンが販売する化粧品等の原材料の販売収入 137 百万円を見込んでおり、治験薬の販売収入、共同研究や事業提携の成果に伴う一時金等の収入は見込んでおりません。しかしながら、今後の臨床試験の進捗や新たな共同研究契約締結・事業提携等の事業開発活動の成果により売上高に変動が見込まれる場合、適時に開示を行ってまいります。

さらに、化粧品事業につきましては、新たな美容液や育毛剤などの商品化を進めてまいります。この新製品の開発の進捗に応じて売上高に変動が見込まれる場合につきましても、適時に開示を行ってまいります。

(注) 業績予想については、現時点での入手可能な情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づき当社で判断したものであり、業績予想には不確定要素が内在しているため、今後の様々な要因により、予算に基づく上記業績予想数値が変更される場合があります。

以 上